

正誤表	2019年版 司法試験・予備試験 体系別短答式過去問集 4 刑法
-----	---

4477-6

本書において下記のとおり、誤りがございました。

内容を訂正すると共に、読者の皆様にご迷惑をおかけしたことを、深くお詫び申し上げます。

恐れ入りますが、本正誤表をご確認の上、ご利用いただきますようお願い申し上げます。

早稲田経営出版

ページ	誤	正
6	肢4 解説全文を以下に差し替えてください。 刑罰をしょく罪と考えた場合、犯した罪に相応の犠牲を払い罪をあがなうべきであるとされ、情状等を理由として処罰を猶予すべきではないと考えうる。したがって、処罰を猶予する余地がなくなるとの批判は正しい。	
110	肢5 解説1行目 期待可能性が <u>乏しい</u> にもかかわらず	期待可能性が <u>乏しくない</u> にもかかわらず

以上